

3類型	農林水産物	通巻番号	3-19-052
地域資源名	静岡茶	認定日	平成20年3月6日
地域	静岡県藤枝市ほか	所管省庁	農林水産省、経済産業省

事業名：水産加工技術を活用した食べる茶葉・ヘルシースナック商品の開発及び販売事業

会社名：株式会社 沖友
 連絡先：TEL：054-636-3700
 FAX：054-637-1881

所在地：静岡県藤枝市高柳3-30-23
 H P : <http://web.thn.jp/okiyu>

事業概要(新たな活用の視点)

- ・ 現在、県内の緑茶事業においては、収益性の高い一番茶では需要が落ち込み、飲料用原料として需要の多い二番茶・三番茶等下級茶では価格競争が起こっている。このため、多くの茶生産農家が厳しい経営環境に立たされている。この状況を打開するため、茶を直接食べる消費等の販路拡大を目指し、本事業を行うものである。
- ・ 当社は地域の農水産物を活用した新商品の開発と販売を目的に設立し、長野県の杜仲葉や沖縄県のもずくを活用した新たな商品を地元と協力して商品化し、販売してきた。
- ・ 緑茶にはカテキンをはじめサポニン、アミノ酸、各種ビタミン、食物繊維等が含まれているが、お茶として飲むと30～40%程度の成分しか摂取できない。当初では、かねてから静岡茶を原料とする新商品として食べる茶葉の開発を進めており、この度、開発及び実用化の目処が立った。そこで、成分の総てを摂取できる食べる茶葉商品の商品化を目指す。



【茶園】



【試作品】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

・ 「静岡茶」の新たな販路を開拓するとともに、低価格である下級茶及び茶園整枝時に刈落して投棄していた硬葉等低利用資源を有効活用し、付加価値の高い商品に加工することによって、地場産業の振興を図る。

・ 食べる茶葉として販売されている商品のほとんどが、緑茶の粉末品及びこの粉末を添加した商品や打錠したサプリメント等であり、この商品のように茶葉を主原料として加工した商品は見受けられない。

◆市場性

・ 健康の為にカテキンを摂取している人以外に、ノンフライであるヘルシーなスナックとして健康維持に配慮する人、健康の為に茶葉を食べる人、野菜嫌いの解消や糖分摂りすぎに注意している人及び常に野菜を摂る人の携帯用として新たな販路が見込まれる。

◆販路

・ 既存の取引先であるカタログ販売業者や通信販売業者からも健康対策食品の要望が強く、既存の取引先とともに参加している「新連携事業」とも協力し、国内及び国外に向けて販売する。

地域資源における関係事業者との連携

- ・ 静岡県工業技術研究所、野菜茶業研究所金谷拠点、九州工業大学工学部との協力関係
- ・ 新連携事業(コア企業：西光エンジニアリング(株))との連携